

市民力かわら版

第19号
 平成22年9月15日
 編集/市民力かわら版編集委員会
 発行/矢板市秘書政策室
 電話：0287-43-1112
 ファクス：0287-43-2292
 Eメール：
 yaita@city.yaita.tochigi.jp



来春オーフス

秒読み態勢に入った道の駅

栃木県で19番目となる「道の駅・やいた」地域活性化の鍵をにぎると、市民のさまざまな期待が集まっています。

建物本体は来年1月に完成予定で、県道バイパスの開通にあわせて来春3月末のオープンを目指しています。今の状況を、市・道の駅担当の永井リーダーにお聞きしました。

●そもそも道の駅って何？

道路利用者の休憩施設と情報発信という機能があれど、国土交通省の道の駅として登録できますが、矢板の場合には農林水産省の補助事業で整備するため、農業振興を図りながら矢板市全体を活性化する施設にします。

●オーフスに向けての準備と課題は？

県北の他の道の駅の直売所と同様、矢板も地産地消をメインにしていこうと考えています。そのためには、直売所組合の出す農産物の質と量が大きく問われることになりそうです。

か、道の駅の担当者だけでなく、市当局や農業振興事務所などの他のセクションも一緒にアッパして、多方面からバックアップしていかないと成り立たないと考えています。

野菜の栽培、野菜の試験販売、野菜の周年栽培、野菜を周年で栽培できるように、ビニールハウスを新たに建てる人のために補助金を出すなどの対策を取っています。



大人気の試験販売

●「道の駅やいた」の方向性は？

「どまんなかたぬま」など、全国から産品を集めて販売しているところがたくさんあります。

さんあります。しかし、矢板は他の道の駅と異なり、競争をするつもりはありませぬ。「地場産の物をきちんと提供する」ということをプルですが難しいことを腰を据えてやっています。生産農家と来店者のコミュニケーションがきちんと取れ、矢板の農産物や加工品の良さを知らせてもらい、リーダーとして来てもらえるようにすることができれば自然に売ります。

道の駅完成予想図



●道の駅に市民力を！

道の駅は交流の場所であり、同時にまちなかで交流するのための拠点でもあり、また、外からのお客様を呼ぶために各イベントを催す予定ですが、そのために参加が必要で、また、道の駅に人々を街へ誘導する方法を考えていかなければなりません。

◆現在、市では観光ボランティアの養成をしています。矢板の紹介、情報の発信ができるよう皆さんで観光ルート作りなどの準備を進めていくところですので、道の駅ができたあかつきには、情報館が、現在20人ほどの活動の場になるでしょう。◆また、今年百年を迎える矢板高校との連携も進めたいです。食料栄養科の生徒から「道の駅に関わり、矢板を元気にしたい！」という提案があり、直売所の野菜売り場や、直売所のドの作りや農産物の提案などに取り組んでいただいています。